

世界 LNG 動向#113 2025 年 5 月

橋本裕*

はじめに

日本は、2025 年 1-4 月、2304 万トンの LNG を輸入し、前年同期比 0.3%増加となった。中国の同じ 4 ヶ月間での LNG 輸入は、前年同期比 22.4%減少して 2006 万トンであった。同国の 2025 年 1-4 月の天然ガス消費量が 1404.6 億 m³と、前年同期比 2.2%減少となった一方で、同国内でのガス生産量が 874 億 m³と前年同期比 5.3%増加となっており、輸入の必要量が減った。パイプラインでの天然ガス輸入量が前年同期比 10.8%増加の 1893 万トンとなっており、結果として LNG 輸入の必要量がさらに減少した。

4 月末・5 月初旬、米大陸で 2 件の新規 LNG 生産プロジェクトの FID（最終投資決定）が発表された。1 件は米国ルイジアナ州、他方はアルゼンチンで、生産規模は両プロジェクトを合わせて年間 1900 万トン分である。また両プロジェクトとも、今回投資決定分以降も大きな追加計画を有している。さらに両地域の他プロジェクトも続くことが期待される。

米国で豪 Woodside Energy が推進する Louisiana LNG プロジェクトは、最初の 3 系列分について FID を発表したもので、2029 年に LNG 生産開始を目指す。米国の大型 LNG 生産案件として、2023 年 7 月以来の FID となった。アルゼンチンで 5 月初旬、Southern Energy FLNG プロジェクト 1 隻目の FID が発表された。

DOE (米エネルギー省) は、Port Arthur LNG フェーズ 2 プロジェクトに対して、米国と自由貿易協定 (FTA) を持たない諸国への LNG 輸出を承認した。本件非 FTA 許可は、2025 年 5 月 19 日に発表された DOE による 2024 年 LNG 輸出スタディ・コメント手続き完了後、初めての「条件付き」ではない許可である。

欧州委員会 (EC) が 5 月初旬、2027 年ロシア産エネルギー供給フェーズアウトのロードマップを公表した。2024 年の欧州連合 (EU) の全 LNG 輸入量 8400 万トン中、ロシア産 LNG は 1700 万トンを占めた。2021 年比で 600 万トン、50%強の増加であり、同国産パイプライン減少分を補う大きな役割を同国産 LNG が担った。EU 向けのロシア産 LNG は、基本的に長期契約で出荷されていることから、2027 年末までその輸入停止は発動しない。

* 資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット

[アジア太平洋]

中国は、2025 年 1-4 月、天然ガス消費量は 1404.6 億 m³、前年同期比 2.2%減となった。他方生産量は 874 億 m³、前年同期比 5.3%増で輸入必要量を減らした。パイプラインでの天然ガス輸入が 1893 万トンと前年同期比 10.8%増で LNG 輸入必要量をさらに減らした。4 ヶ月間の LNG 輸入は 2006 万トンと前年同期比 22.4%減となった。

中国 Guangdong Pearl River Investment Management Group (广东珠江投资管理集团有限公司) (Pearl River Investment (珠江投管集团)) は、2025 年 5 月 20 日、ConocoPhillips との間で、15 年間の LNG SPA (売買契約) を締結したことを発表した。

Mercuria Energy Group Holding 社は、2025 年 5 月 21 日、Mercuria Energy Trading 社が、Guangzhou Gas Group (广州燃气集团) との間で、長期 LNG SPA (売買契約) を締結したことを発表した。

bp 中国は、2025 年 5 月 21 日、Zhejiang Energy Group (浙能集团) と長期 LNG SPA (売買契約) を締結したことを発表した。bp は最大年間 100 万トンの LNG を DES 条件で 10 年間、bp のグローバルポートフォリオより供給する。

中国の Sinopec (中国石化) は、2025 年 5 月 14 日、シェールガス開発におけるブレイクスルーを発表した。"Project Deep Earth - Sichuan and Chongqing Natural Gas Base" ("深地工程・川渝天然气基地") の Tiebei 1HF 井 (铁北 1 側 HF 井) は、工業レベルでのガスのフローとして、日量 314,500 m³ を記録した。同井の垂直深度は 5,300 m を超え、水平区間は 1,312 m であり、中国のシェールガス井の垂直深度として新記録となる。

ブルネイ Brunei LNG 社は、2025 年 5 月 2 日、長期 LNG SPA (売買契約) を PetroChina International Singapore 社と締結したことを発表した。

ベトナム PetroVietnam Gas (PV Gas) は、2025 年 5 月 9 日の通知で、6 月 5 日 - 7 月 5 日枠で DES 条件の 1 カーゴを Thị Vải 基地向けに求めていることを示した。

シンガポール EMA (エネルギー市場監督庁) は、2025 年 5 月 7 日、Singapore GasCo 社が発電部門天然ガス調達・供給を集中化するため、完全政府所有機関として設立された、と述べた。天然ガスはシンガポール発電の 95% を占める。

HYCO1 社は、2025 年 4 月 23 日、HYCO1・マレーシア Malaysia LNG 社間で、年間 100 万トンの二酸化炭素 (CO₂) の利用・転換の検討に関して協力する MoU (覚書) を締結したことを発表した。本 CCU (炭素回収・利用) プロジェクトは、サラワク州ビントゥルの Malaysia LNG (MLNG) 本拠地に立地することとなる。HYCO1 の CUBE™ 技術は、CO₂ を主原料として、配分は調整可能な水素 (H₂)・一酸化炭素 (CO) を製造する。本 MOU は、MLNG が当初 2030 年までには開始で 20 年間、年間 100 万トンの CO₂ を HYCO1 に供給する計画、としている。CCU 設備は 2029 年までに完成予定としている。

Eni 社は、2025 年 5 月 13 日、インドネシア沖 Kutei 盆地 Merakes East ガス田生産開始を発表した。East Sepinggan 鉱区 (Eni 85%) にあり、同社生産にガス日量 0.1 bcf を加える見込み。Jangkrik 浮体生産設備 (FPU) に海底接続される。ガスは国内市場、Bontang

液化設備向けに供給される。

石油資源開発株式会社 (JAPEX) は、2025 年 5 月 22 日、インドネシア・Gebang 鉱区の権益を 100% 保有する Energi Mega Persada Tbk. (EMP) 子会社 EMP Gebang 社 (EMPG) の株式の 50% を取得することを発表した。同時に、Energi Mega Pratama Inc. (EMPI) への出資を通じて JAPEX が参画する Kangean プロジェクトについて、自社が保有する EMPI 株式全てを、EMPI の親会社である EMP へ譲渡する。Gebang 鉱区にて、既発見未開発の Secanggang ガス田の開発を主導し、早期生産を実現するとともに、新規ガス田の発見も目指す。

株式会社 INPEX は、2025 年 05 月 22 日、インドネシアのエネルギー・鉱物資源省が実施した 2024 年第 2 回公開入札ラウンドにて、同国東ジャワ沖合海域に位置する Serpang 探鉱鉱区を共同入札パートナーとともに落札し、株式会社 INPEX Serpang を通じて、同国石油ガス上流事業監督官庁である SKK MIGAS、PETRONAS Energy Serpang Sdn. Bhd. (PE Serpang)、EO Serpang Pte. Ltd. (EOS) の間で生産分与契約 (PSC) を締結したことを発表した。

BK LNG Solution 社 (BKLS) は、2025 年 5 月 7 日、Bosowa Energy グループと MOU (覚書) を締結して戦略パートナーシップを発表、LNG・さらに広範囲のエネルギー・インフラストラクチャー部門での包括的な協力を進める。両社は LNG 供給チェーン統合整備、FSUs (浮体貯蔵設備)、天然ガス発電、下流のエネルギー事業、ISO タンクコンテナによる小規模 LNG 配給等の分野で協力する。主要要素のひとつとして、遠隔諸島の既存ディーゼル火力発電設備 (PLTD) を、LNG を用いるガス火力発電設備 (PLTG) への転換がある。このパートナーシップは、モジュラー型 LNG 気化設備、地域分散型マイクログリッドシステムも対象とする。初期のパイロットプロジェクトは、2025 年内にインドネシア東部で開始する。

インド HPCL (Hindustan Petroleum Corporation Limited) 社は、2025 年 4 月 30 日、LNG SPA (供給・購入契約) をアブダビ ADNOC LNG 社と締結したことを明らかにした。HPCL はグジャラート州 Chhara に LNG 基地を稼働開始している。報道によると、インド Indian Oil (IOC) 社は、Trafigura との間で、LNG 購入に関する 5 年契約を締結した。

豪州石油・ガス生産業界団体 Australian Energy Producers は、2025 年 5 月 4 日、連邦議会労働党の再選を祝す声明を発表した。同団体はまた、政府・野党に対して、豪州エネルギーミックスにおけるガスの長期的役割を認知する持続的なエネルギー政策改革について建設的に進めていくことを求めた。

豪 Viva Energy 社は、2025 年 5 月 29 日、ヴィクトリア州政府がジーロングでの Viva Energy の LNG 基地プロジェクトの EES (環境影響評価) について肯定的評価を出したことを発表した。本件新たなインフラストラクチャーは、ジーロング精製設備棧橋延伸・恒久型繫留 FSRU (浮体貯蔵・気化設備)・同州ガスシステムに接続する 7-km パイプラインを含む。同基地建設は 2 年間が見込まれる。

豪 Origin Energy 社は、2025 年 5 月 23 日、Australia Pacific LNG が中国 Sinopec (中国石化) との LNG 供給契約における価格見直しを完了した、と述べた。発表によると、今回の価格見直しにより、2025 年 1 月 1 日から JCC (日本原油平均輸入価格) 連動契約傾きが下げられた。本供給契約は 2035 年 12 月終了であり、最後 1 回の価格見直しは 2030 年となる。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 5 月 28 日、North West Shelf プロジェクト期間延長に関して環境承認する連邦政府判断を歓迎した。Woodside は、文化遺産・大気品質含む諸問題に関する連邦政府側の条件案を受領した、と述べた。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 5 月 14 日、Scarborough Energy プロジェクトが浮体生産設備 (FPU) の上部構造と船殻を統合したことを発表した。同プロジェクトは 2026 年後半目標の初 LNG カーゴに向け進展している。豪州への出航に向けて FPU の残りの統合作業は、中国烟台市の組み立てヤードで続く。FPU は西オーストラリア州カラサ 375 km 沖に繫留されることとなる。発表によると同プロジェクトは LNG 年間 800 万トン、同州内市場向け国内ガス供給日量 225 TJ (テラジュール) を供給することとなる。

西オーストラリア州環境保護部門の 2025 年 5 月 12 日付情報によると、Woodside Energy 社は、1986 年環境保護法に基づき、Browse to NWS 開発計画に変更を加える申請を提出した。この修正案には、Scott Reef 浅水底生生物の生息地・Sandy Islet と重ならないように開発地域のサイズを縮小、アオウミガメ生息地を回避するように掘削機械の移転、および生産井制御不能事態のリスクを最小化する技術の採用を含む。EPA はこの修正文書を 2025 年 5 月 12 日から、6 月 10 日の 4 週間のパブリックコメント対象とすることを決めた。

豪州の環境対策を通じて健康保護に焦点を置く医療従事者団体 DEA は、2025 年 5 月 1 日、Woodside 社 Scarborough ガスプロジェクトの環境保護計画 (EP) について、海洋石油類安全・環境監督規制機関 NOPSEMA による承認の司法判断を求める連邦法廷での審査手続きを開始したことを発表した。

豪 Santos 社は、2025 年 5 月 7 日、Barossa プロジェクトは 95.4%完了し、ガス生産開始は同年第 3 四半期に期待される、と述べた。FPSO (浮体生産・貯蔵・積み出し) 船舶・SURF (海底生産システム) はほぼ完成、Darwin LNG パイプライン複線化は 85%以上完了している。Moomba Central 最適化プロジェクトは、LNG・国内諸市場向け長期ガス供給確保に重要な役割を持ち、2025 年中に FID (最終投資決定) 準備完了を目標としている。諸設備の電化・集中化、老朽化コンプレッサーの入れ替えにより、Santos は陸上 Cooper 盆地の単位当たりガス生産コストの引き下げを期待している。

Sunda Energy 社は、2025 年 4 月 24 日、ティモールレステ沖 TL-SO-19-16 生産分与契約 Chuditch ガス田 (Chuditch PSC) の掘削の資金調達に関わる一連の契約を締結したことを発表した。SundaGas Banda Unipessoal 社は、同国政府傘下の TIMOR GAP Chuditch Unipessoal 社とのファームイン契約を締結し、TIMOR GAP の持分は 40%から 70%に増加する。SundaGas は同 PSC のオペレーター権を維持する。

豪 Santos 社は、2025 年 5 月 7 日、パプアニューギニア Papua LNG プロジェクトは 2026 年の FID (最終投資決定) 準備完了を見込んでおり、P'nyang プロジェクトは処理コンセプト選定フェーズにある、と述べた。

[北米]

DOE (米エネルギー省) は、2025 年 5 月 19 日、2024 年 LNG 輸出スタディへのコメントに対する応答を公表した。「米国産 LNG 輸出は米国民にも、世界にも、望ましいこと」と述べた。「2024 スタディは、LNG がわが国経済を支え、同盟諸国を強化し、国家セキュリティを向上することを確認している。2024 年 LNG 輸出スタディへのコメントに対する応答により、DOE は LNG 輸出に関して通常の方式に戻ることができる」。2024 年 LNG 輸出スタディに対するパブリックコメントが対応されたため、DOE は米国産天然ガスを LNG として非自由貿易協定諸国に輸出する審査中の申請に最終指令の発行に進む、としている。

PHMSA (米パイプライン・危険物安全管理局) は、2025 年 4 月 29 日、LNG 設備規制更新、新規 LNG インフラストラクチャープロジェクト迅速推進、輸出設備拡張、小規模 LNG 市場拡大を目指す規則改正案に関して、コメントを求めていることを発表した。この発表によると「これらの規則改正は、米国のエネルギー生産・輸送者に、技術進展やエンジニアリング上のベストプラクティスを活用できるようにし、時代遅れな規制を廃することで、負担を減らすもの。これら新規則が、米消費者にとってのコスト低下に貢献、海外同盟国を支援する」とのこと。

米連邦議会下院が「大きく美しい 1 つの法案」こと 2025 年税制・歳出法案を 2025 年 5 月 22 日可決したことを、業界団体は歓迎した。API (米石油協会) は、「競争力ある税制政策を維持、『メタン課金』見直し開始、鉦区リース開始、許認可推進により」同法案は国家のエネルギーの将来に向け前進となる、と述べている。IPAA (米独立系石油協会) は、「同法案が、メタン税を含むメタン排出削減プログラム (MERP) 完全廃止を含んでいないことは残念である。同法案に含まれているのは、NERP の 10 年間先送りである」と述べている。

業界団体は、連邦環境政策法 (NEPA) 下での重要インフラストラクチャープロジェクトにおける環境審査範囲を狭める 2025 年 5 月 29 日の最高裁の全会一致判断を、業界団体は歓迎している。

Cheniere Energy 社は、2025 年 5 月 8 日、自社は米ガルフに Sabine Pass ・ Corpus Christi 液化設備 (SPL ・ CCL) で構成する総生産容量として稼働中年間 4600 万トン・建設中 800 万トン強の世界最大級の液化プラットフォームを有する、と述べた。Cheniere Partners は、SPL プロジェクト隣接で総生産容量年間 2000 万トン拡張開発中である (SPL Expansion Project)。Cheniere は、CCL プロジェクト隣接でミッドスケール液化系列 7 本・総生産容量年間 1000 万トン拡張建設中である (CCL Stage 3 Project)。第 1 系列は 2025 年 3 月、実質完成に達した。プロジェクト完成率は 3 月末時点で 82.5%、実質完成見込みは 1H 2025 - 2H 2026 としている。Cheniere は CCL Stage 3 隣接で追加ミッドスケール液化系

列 2 本・総生産容量年間 300 万トン拡張開発中である (CCL Midscale Trains 8 & 9 Project)。2025 年 3 月、Cheniere は FERC (連邦エネルギー規制委員会) より、立地・建設・操業承認を受けた。2025 年 FID に向け残り規制承認を受けることを期待している。

Cheniere Energy 社は、2025 年 5 月 28 日、Cheniere Marketing 社が長期統合型生産・マーケティング (IPM) ガス供給契約を Canadian Natural Resources 社と締結したことを発表した。後者子会社が天然ガス日量 140,000 百万 Btu の天然ガスを Cheniere Marketing 向けに 15 年間、2030 年の開始見込みで販売することに合意した。本ガス供給に伴う LNG は、年間 85 万トンで、Cheniere Marketing により販売されることとなる。Cheniere Marketing はこの天然ガスについて、LNG 連動価格を、Platts Japan Korea Marker (JKM) に基づき、固定の LNG 輸送コスト・固定液化手数料控除後、支払うこととなる。本 IPM 契約は、Sabine Pass Liquefaction 拡張プロジェクト (SPL 拡張プロジェクト) について FID (最終投資決定) を行うことが条件となる。SPL 拡張プロジェクトは、デボトルネッキング見通し込みで年間 2000 万トン容量を見込んで開発中である。

Sempra Infrastructure 社は、2025 年 5 月 29 日、DOE (米エネルギー省) が Port Arthur LNG 第 2 段階開発プロジェクトに、米国と自由貿易協定 (FTA) を持たない諸国向けに最大年間 1350 万トンまでの LNG を輸出することを認める許可を発行したことを発表した。Sempra 発表によると、今回の非 FTA 許可は DOE の 2024 年 LNG 輸出スタディ完了後発行される初の許可である。同第 2 段階プロジェクトは 2023 年 9 月に FERC (連邦エネルギー規制委員会) 承認を受け、2 液化系列で構成され、Port Arthur LNG 設備の液化容量を年間 2600 万トンに倍増する。さらに将来の複数の段階が初期開発に入っている。2024 年 6 月、Sempra Infrastructure ・ Aramco 子会社が、長期 LNG 引き取り契約、Port Arthur LNG 第 2 段階プロジェクトへの出資を想定した非拘束 HoA (基本合意) を締結した。2024 年 7 月、Sempra Infrastructure は Bechtel 社が同プロジェクト向けに固定価格の EPC (エンジニアリング・調達・建設) 契約に選定されたことを発表した。Port Arthur LNG 第 1 段階プロジェクトは建設中で、第 1・2 系列、LNG 貯蔵タンク 2 基、随伴諸設備で構成される。第 1・2 系列は各々 2027 年、2028 年の商業稼働開始見込み。指令によると、今回申請の非 FTA 部分を、申請された全数量年間 698 Bcf、日量 1.91 Bcf にて 2050 年 12 月 31 日まで認める。

Bechtel 社は、2025 年 4 月 29 日、Port Arthur LNG 建設現場で、タンクのジャンプフォーム足場で事故があり、3 人が死亡、2 人が負傷したことを確認した。「ジャンプフォーム」は、特定の建設プロジェクトで用いられる足場の 1 種である。

ExxonMobil 社は、2025 年 5 月 2 日、Golden Pass LNG プロジェクトは予想通りのペースで進展し続けている、と述べた。同社は LNG 生産開始について、2025 年末までに見込んでおり、2026 年初にずれ込む可能性はあるとしている。

カタール QatarEnergy 社は、2025 年 5 月 20 日、同年末に Golden Pass 稼働により米国からの LNG 輸出者になる、と述べた。

Venture Global 社は、2025 年 5 月 2 日、Venture Global CP2 LNG (CP2) 社が、2023 年初より開始したルイジアナ州キャメロン郡カルカシュー運河沿いの天然ガス液化・輸出設備の製造・調達・エンジニアリング継続のため、19 銀行から 30 億米ドル分の銀行融資へのコミットメントを確保したことを発表した。CP2 はピーク生産容量年間 2800 万トンの計画である。

FERC (米連邦エネルギー規制委員会) は、2025 年 5 月 23 日、Venture Global 社の CP2 輸出プロジェクトに対する同委員会の立場は、公共利益と矛盾しない、と述べた。

NextDecade 社は、2025 年 5 月 6 日、4 月に自社が Aramco ・ TotalEnergies とそれぞれ 20 年間の LNG SPAs (売買契約) を締結、ADNOC に続く第 4 系列を支える長期顧客としたことにより、FID (最終投資決定) を支える十分なコマーシャル上のコミットメントができた、と述べた。NextDecade は、Bechtel との間で第 4 系列 EPC 契約更新を話し合っており、直ちに第 4 系列資金調達手続きを開始する見込みとしている。

米 NextDecade 社は、2025 年 5 月 29 日、JERA との間で Rio Grande LNG 設備第 5 系列から引き取りに關しての 20 年間 LNG SPA (売買契約) を締結したことを発表した。JERA は年間 200 万トンの LNG を 20 年間、FOB (積地本船渡し) 条件・ヘンリーハブ指標連動で、第 5 系列推進 FID (最終投資決定) を条件として、購入することとなる。

豪 Woodside 社は、2025 年 4 月 29 日、3 系列・年間 1650 万トン Louisiana LNG 開発の FID (最終投資決定) を行ったことを発表した。Woodside は 2029 年 LNG 生産開始を目指している。本開発には、追加 2 系列の拡張容量があり、合計年間 2760 万トン分まで許可を受けている。

豪 Woodside 社は、2025 年 4 月 30 日、bp との間で、Louisiana LNG プロジェクト向けの天然ガス供給について契約を締結したことを発表した。この発表によると、原料ガスの多様化したポートフォリオの最初的一部分となる。「bp による MiQ 認証の経験に立脚して、Louisiana LNG プロジェクト向けに認証可能な低メタン排出原単位のガスにアクセスできる。これは Woodside の、国連環境計画 (UNEP) OGMP 2.0 イニシアチブメンバーとしての目標を支えるものとなる」。Louisiana LNG 社完全子会社 Louisiana LNG Gas Management (GasCo) は、長期ベースで最大 640 bcf (486 万トン (註: 年間ベースと推量)) のガスを bp から購入することにコミットしたもので、Line 200 での引き渡しは 2029 年開始となる。

Wood Group 社は、2025 年 5 月 3 日、Woodside Energy 社の Line 200 プロジェクトルイジアナ州内 Indian Bayou コンプレッサーステーションのコンプレッサー・ガスタービン発電設備の詳細設計・エンジニアリングを担当することを発表した。

Louisiana LNG ・ Driftwood Pipeline は、2025 年 5 月 13 日、FERC (米連邦エネルギー規制委員会) への提出書類にて、豪 Woodside Energy による Tellurian 買収後のプロジェクト建設状況を正確に反映するため修正された Louisiana LNG の Bechtel Energy 社との EPC (エンジニアリング・調達・建設) 契約における更新後の日程に沿った形で、プロジェ

クト稼働開始日程を 2029 年 12 月 31 日まで 8 ヶ月間追加延長することを申請した。Woodside Energy が進めている追加の出資持分売却、引き取りの契約、その他開発進展のための第三者との取引手配を支えるべく、前記の延長が必要としている。これらは全て、Louisiana LNG ・ Driftwood Pipeline の規制承認が建設期間中を通じて法的に有効であることを必要とする、としている。Louisiana LNG ・ Driftwood Pipeline は、6 月 13 日までに承認することを求めている。

豪 Woodside Energy 社は、2025 年 5 月 14 日、サウディアラビア Aramco 社との間で、Louisiana LNG プロジェクトにおける後者の出資参加を含むグローバルレベルでの機会の探求に関して、非拘束の協力協定を締結したことを発表した。両社はより低いカーボンのアンモニアに関する協力可能性も検討しているとのこと。

Energy Transfer 社は、2025 年 5 月 6 日、4 月に Lake Charles LNG ・ Mid Ocean Energy が同 LNG プロジェクトの共同開発に関して非拘束の枠組を提供する HoA (基本合意) を締結した、と述べた。Mid Ocean は建設コストの 30%負担にコミット、LNG 生産の 30%に権利を持つこととなる。Energy Transfer は、4 月に Lake Charles LNG は、拘束力ある SPA (売買契約) を、日本の公益事業会社と最大年間 100 万トンについて締結した、と述べた。同契約は、5 月までに見込まれるこの会社の取締役会承認が条件となる。Energy Transfer は、4 月に Lake Charles LNG はドイツのあるエネルギー企業と最大年間 100 万トンについて HOA を締結した、と述べた。Lake Charles LNG は残りの未契約 LNG 引き取り数量について話し合いを行っており、FID (最終投資決定) を 2025 年末までに目標としている。

九州電力株式会社は、2025 年 5 月 29 日、米 Energy Transfer 社と LNG SPA (売買契約) を締結することを決定したことを発表した。Energy Transfer は、ルイジアナ州 Lake Charles LNG プロジェクトから 20 年間、年間最大 100 万トンを経済的に供給する。受渡条件は、仕向地制限のない FOB (積地渡し) である。

Commonwealth LNG 社は、2025 年 5 月 5 日、あるメジャーなアジアのエネルギー企業と SPA (売買契約) を締結したことを発表した。当該買主はルイジアナ州キャメロン郡で開発中の Commonwealth の年間 950 万トン設備から、年間 100 万トンの LNG を 20 年間購入することとなる。Commonwealth はまた、2025 年 4 月 28 日に、Woodside Energy Trading Singapore 社との間で 2022 年 9 月 2 日に締結した 2 本の SPAs を、その条件に従って打ち切りとしたことも明らかにした。Commonwealth は FID (最終投資決定) 2025 年を目標として、引き取り開始を 2029 年に計画している。Commonwealth は Kimmeridge 社が立ち上げた Kimmeridge SoTex Holdco 社に所有されている。SoTex はまた上流部門天然ガス開発企業 Kimmeridge Texas Gas も所有している。

Kimmeridge 社は、2025 年 5 月 13 日、傘下の Kimmeridge Texas Gas (KTG) ・ Commonwealth LNG が、Glencore 社と戦略的な天然ガス・LNG パートナシップ契約を締結したことを発表した。Glencore は Commonwealth から 20 年間・年間 200 万トン

の LNG、KTG から国際価格ネットバック契約で等量の天然ガス供給を購入する。Glencore との契約を含め、Commonwealth は長期契約での年間 300 万トン分の引き取りを確保し、2025 年第 3 四半期 FID (最終投資決定)、LNG 生産は 2029 年を見込んでいる。

FERC (米連邦エネルギー規制委員会) 事務局は、2025 年 5 月 16 日、Commonwealth LNG プロジェクトへの FERC 環境審査に関する 2024 年 7 月 16 日付コロンビア特別区連邦控訴審による意見に対応して、最終追加環境影響評価書 (EIS) を発行した。

米テキサス州 Galveston LNG Bunker Port 社 (GLBP) は、2025 年 5 月 19 日、米陸軍工兵隊、米沿岸警備隊から最終承認を受けたことで、完全に建設許可が揃ったことを発表した。本件 LNG 設備は、米湾岸で最初の専用海洋バンカー港湾設備となる。Pilot LNG、Libra グループ海洋部門子会社 Seapath グループの合併事業である。

BKV 社、Comstock Resources 社は、2025 年 4 月 30 日、BKV が Comstock の Western Haynesville 操業地域の天然ガス処理設備 2 件で炭素回収・活用・吸着化 (CCUS) プロジェクトを開発する排他的・非拘束契約を発表した。両社は Comstock のテキサス州内 Bethel・Marquez 天然ガス処理・生産設備、その他地点の二酸化炭素恒久的吸着貯蔵のための CCUS 注入井を開発する計画である。

Glenfarne グループ子会社・アラスカ州アラスカガスライン開発公社 (AGDC) との合併事業 Alaska LNG の多数所有者・筆頭開発者である Glenfarne Alaska LNG 社は、2025 年 5 月 27 日、Alaska LNG パイプラインについて FID (最終投資決定) 実現まで十分な詳細に渡り追加エンジニアリング実施・最終コスト見積に至る業務に Worley 社を選定したことを発表した。この作業は開始されており、過去に完成されたエンジニアリング作業を活用・補完し、パイプラインコストを更新する。Worley はまた、Cook Inlet Gateway LNG 輸入基地のエンジニアリング企業・Alaska LNG プロジェクトの Glenfarne 社への実施アドバイザーとしても選定された。Glenfarne は、Alaska LNG プロジェクト実現の支援につながる補完的な熟練を有するグローバルな企業と組むために、戦略パートナー選定プロセスに入っている。Alaska LNG パイプラインは、全長 807 マイル (1,299 km) ・42 インチ径パイプラインで、アラスカ州内需要を満たすと同時に、Alaska LNG 輸出設備年間 2000 万トンの供給を行う十分な天然ガスを輸送できることとなる。同パイプラインは、2 段階で建設されることとなる。第 1 段階は North Slope からアンカレッジ地域までの 765 マイル (1,231 km)、天然ガスを輸送する。第 2 段階は、圧送機器およびクックインレット湾を潜りニスキの Alaska LNG 輸出設備までの 42 マイル (68 km) 区間を加え、LNG 輸出設備と並行して建設されることとなる。Glenfarne は Alaska LNG パイプラインに関する FID (最終投資決定) を 2025 年に見込んでいる。

タイのエネルギー省は、2025 年 5 月 8 日、米アラスカ州 Alaska LNG からのガス輸入について適切な量を検討する、と述べた。年間 300 - 500 万トンとなる可能性がある。同省は、PTT、EGAT、Electricity Generating Public Company を、同プロジェクトに関わる詳細交渉、Alaska LNG プロジェクトにおける協力促進の事業性評価検討に指名した、と述

べた。

媒体報道によると、アラスカ州 Alaska LNG プロジェクトの、アラスカ天然ガスパイプライン建設は早ければ 2026 年に開始する、と同州知事が 2025 年 5 月 12 日述べた。パイプライン部分の FID (最終投資決定) は同年秋に期待される、と述べた。同プロジェクトの漸進型アプローチを説明、同パイプラインを通じて州内用途に 2028 年または 2029 年にガスが流れる、と述べた。

Shell 社は、2025 年 5 月 3 日、カナダ LNG Canada プロジェクトは、同年半ばの初カーゴに向け予定通り進展している、と述べた。

Seaspan Energy は、2025 年 4 月 29 日、3 隻の完全電動型港湾曳船が、ダグラスチャンネルに初めての LNG 輸送船舶をエスコートして、LNG Canada 設備の操業に先立つコミッションング活動に必要な輸入カーゴを輸送して棧橋までの航行を支援したことを発表した。

カナダ Woodfibre LNG 社は、2025 年 5 月 1 日、プロジェクト現場での 2 件目の居住用船舶の配置に関して規制機関の申請を提出することを明らかにした。建設について 900 人の熟練労働力追加のため現在の居住用船舶に隣接して繋留する規制承認を求める。同社は、5 月 7 日、建設最新状況を報告した。現場では、2025 年到着予定の LNG 処理機器、モジュールの基盤に関わる作業等が進行している。

カナダ Woodfibre LNG プロジェクトは、2025 年 5 月 26 日、特製 LNG モジュール最初の 7 件が同 24 日に現場に到着したことを発表した。2025 年残りの期間から 2026 年まで総計 19 モジュールが現場に引き渡されることとなる。

TotalEnergies 社は、2025 年 5 月 19 日、カナダ Ksi Lisims LNG との間で、当該プロジェクトへの FID (最終投資決定) を条件として、年間 200 万トンの LNG を 20 年間、計画中の液化設備より、購入する SPA (売買契約) を締結したことを発表した。TotalEnergies は Ksi Lisims LNG プロジェクトの開発者、株主、将来のオペレーターとなる Western LNG の 5%株式を取得する。この買い取りにより、FID がなされる際に、TotalEnergies には Western LNG における持株を増加するか、10%程度まで設備の直接所有権、またはその両方を得るオプション権が認められる。Ksi Lisims LNG プロジェクトは、容量年間 1200 万トン、カナダ (ブリティッシュコロンビア州) 太平洋岸に位置する。この発表によると、完全に水力発電動力とする Ksi Lisims LNG は、世界で最も CO₂ 排出が低い LNG プロジェクトのひとつとなる。

Seaspan Energy 社は、2025 年 5 月 9 日、バンクーバー港で旅客船としては初めて代替燃料の積み込みがなされ、LNG を同社の LNG バンカー船舶 Seaspan Garibaldi により充填した。

Sempra 社は、2025 年 5 月 8 日、Energía Costa Azul プロジェクトは様々なサブシステムで機械的な完了に至り、プレコミッションング活動には入れており、2026 年の早期にコマーシャルオペレーションを見込んでいることを明らかにした。EPC (エンジニアリング・調達・建設) 請負会社は、エンジニアリング・調達活動を完了し、Sempra は資材コスト上

昇から大きなインパクトを予想していないとのこと。

DOE (米エネルギー省) FECM (化石燃料・カーボンマネジメント局) は、2025 年 5 月 7 日付連邦官報に、Mexico Pacific Limited (MPL) 社の、支配権変更について受領通知を掲載した。MPL プロジェクト FID (最終投資決定) に向けて新たな資本源を確保することとしている。

シンガポールに本拠を置く LNG Alliance 社は、2025 年 4 月 30 日、オマーン OQ Trading (OQT) 社が 15 年間の LNG SPA (売買契約) を LNG Alliance メキシコ子会社 Amigo LNG 社と締結したことを発表した。OQT は、年間 60 万トンの LNG を、FOB (本船渡し) 条件で、Amigo LNG のメキシコ ソノラ州グアイマスの輸出設備から購入する。LNG 引き渡しは 2028 年第 2 四半期開始を見込む。

[中東]

アブダビ ADNOC Gas 社は、2025 年 5 月 5 日、Rich Gas Development プロジェクトの FID (最終投資決定) を 2025 年内に見込んでいる、と述べた。本件は Bab Gas Cap プロジェクトと合わせ、自社ガス処理容量を 30%、日量 1.5 bcf 以上拡大する戦略の一環となる。

カタールのエネルギー相は、2025 年 5 月 21 日、「North Field East 開発最初の LNG 系列は 2026 年半ばに稼働開始する... North Field West はエンジニアリング段階にあり、2027 年のいずれかの時期建設段階に入る。LNG 生産を現在の 7700 万トンから、2025 年稼働開始のテキサス州 Golden Pass プロジェクトを含めて、1.60 億トンまで倍増する」と述べた。

「QatarEnergy は 1 社として最大の LNG 輸出者となる。国としてのカタールは、長期間米国に次ぐ第 2 の LNG 輸出者となる」。同大臣は、QatarEnergy は米国で世界最大のエタンクラッカーを建設しており 2027 年第 1 四半期生産開始見込み、MENA 地域最大のエタンクラッカーをラスラファンに建設中で、2027 年初生産開始見込み、と述べた。「中国は私達の最大の LNG 買主であり、NFE・NFS 拡張のパートナーである。カタールは歴史的な LNG 造船プログラムの一環として、多数を建造している」とした。

オマーン Oman LNG は、2025 年 5 月 19 日、Vitol 社との SPA (売買契約) 締結を発表した。Oman LNG は LNG を Vitol 向けに、DES フレキシブル条件で、引き渡し (年間 800,000 トン) を 2026 年 1 月から開始する。

TotalEnergies 社は、2025 年 5 月 1 日、オマーン OQ Exploration and Production (OQEP) 社とともに、同国北部ソハール港湾の Marsa LNG 設備について、FID (最終投資決定) から 1 年、その起工式を実施したことを発表した。この年間 100 万トン液化設備は、Marsa LNG 社により建設される。同社は TotalEnergies (80%) ・ OQEP (20%) 合弁事業である。LNG 生産は 2028 年第 1 四半期開始が見込まれ、ガルフ地域における海洋燃料市場 (LNG バンカリング) 用途を意図している。Marsa LNG 設備は完全電化し、300 MW ピークの太陽光発電設備を組み合わせる。今回の発表は、Marsa LNG は世界で最も炭素原単位の低い LNG 設備のひとつとなり、スコープ 1/2 排出で原油バレル換算当たり CO₂ 3 kg 相当未

満としている。新規 LNG バンカリング船舶の傭船契約も Marsa LNG 社により締結されている。その Monte Shams は建造中で、2028 年からソハールに駐留することとなる。

【アフリカ】

モロッコのエネルギー・トランジション・サステナブル開発省は、2025 年 4 月 23 日、Nador West Med 港湾での天然ガス受入・貯蔵・気化・輸送インフラストラクチャー、ガス火力発電設備の開発について関心募集を発表した。プログラムには、インフラストラクチャーの設計・建設・機器操業メンテナンスが含まれる。基地は FSRU (浮体貯蔵・気化設備) あるいは FSU (気化設備は栈橋側に設置) 方式としている。

ノルウェー Höegh Evi 社は、2025 年 5 月 12 日、エジプトに Hoegh Gandria を FSRU (浮体貯蔵・気化設備) として配船する Egyptian Natural Gas Holding 社 (EGAS) との 10 年間の傭船契約を発表した。FSRU Hoegh Gandria は 2026 年第 4 四半期、Sumed 港湾に配備される。Höegh Evi は Hoegh Gandria を FSRU に改造する。Hoegh Gandria は 2023 年 2 月、改造織り込みで買い取られた。FSRU Hoegh Gandria は Hoegh Galleon に入れ替わる。後者は 2024 年 7 月にエジプトに配備されたが、AIE・Höegh Evi からの暫定傭船だった。Galleon は 2027 年豪州 Port Kembla の LNG 基地への配備前、あと 1 年エジプトに留まる。

Seatrium 社は、2025 年 5 月 13 日、Höegh Evi 社から FSRU (浮体貯蔵・気化設備) 改造契約を受注したことを発表した。LNG 輸送船舶 Hoegh Gandria を FSRU に改造し延命するもので、気化機器の設置、カーゴハンドリング、ユーティリティ、積み出し、電気、自動化システムを含む。エンジニアリング作業は 2025 年 5 月に開始し、推定プロジェクト期間は 18 ヶ月間となる。完成後 Höegh Evi・Egypt Natural Gas Holding 社 (EGAS) 間の傭船契約に基づき、エジプト Sumed 港に配備されることとなる。

セネガルのダカール港湾水先案内人協会は、2025 年 5 月 3 日、自港湾で FSRU 向けに最初の LNG STS オペレーションを実施したことを発表した。LNG MARAN GAS KIMOLOS が FSRU KARMOLAFRICA に繋留された。このカーゴはセネガル向け最初の LNG 輸入となった。

Oceaneering International 社は、2025 年 5 月 7 日、自社 Offshore Projects Group (OPG) 部門が bp Mauritania Investments 社より、Greater Tortue Ahmeyim ガス田海底点検・メンテナンス・修繕 (IMR)、遠隔操業機器 (ROV) 業務の複数年契約を受注したことを発表した。エンジニアリング・準備活動は開始されており、現場作業は 2025 年第 2 四半期開始見込み。当初契約期間は 3 年、2 年間の延長オプションが 2 回分付いている。

UAE (アラブ首長国連邦) Technomak 社は、2025 年 5 月 3 日、Perenco Gabon 社のガボンでの Cap Lopez Floating LNG (FLNG) プロジェクト向けに、Dixstone 社との間で EPCCI (エンジニアリング・調達・建設・コミッショニング・統合化) 契約を締結したことを発表した。Cap Lopez FLNG 設備は、年間 700,000 トンの LNG、25,000 トンの LPG 生

産容量を持つ見通し。FLNG バージは UAE の Technomak ヤードで組み立て・統合化される予定。

TotalEnergies 社は、2025 年 4 月 30 日、モザンビーク Mozambique LNG プロジェクトに関して、資金調達は全て軌道に戻りつつある、と述べた。同社によると、当該工業地域のセキュリティは完全に確保されている。同社はモザンビーク当局に同プロジェクトの人権問題に関する調査を要請したとのこと。同社によると、年半ばのプロジェクト再開を目標としている。

[欧州・周辺地域]

欧州議会産業・研究・エネルギー委員会は、2025 年 4 月 24 日、EU の 2022 年ガス貯蔵制度の 2027 年 12 月 31 日までの延長に関する欧州委員会案を支持する法案を採択した。エネルギーセキュリティを市場原則にバランスさせ、ガス価格を引き下げするために、充填目標を 90%から 83%に引き下げることがを提案している。目標は毎年 10 月 1 日から 12 月 1 日のいずれかの時点で満足すべきものとしている。加盟国は、供給の中断や高需要などの不利な市場環境の場合充填目標を最大 4%下げることが認められることとしている。欧州委員会はこれら市場環境が継続する場合、さらに 4%下げることが出来るものとしている。しかし加盟国は、これら柔軟性と市場環境悪化の累積的效果として貯蔵充填義務が 75%を下回ることがないことを確保しなくてはならないものとして、議会委員会は合意した。本案は賛成 64、反対 10、棄権 12 で採択された。

VTTI 社、Höegh Evi 社は、2025 年 5 月 2 日、オランダ Zeeland Energy Terminal (ZET) 基地プロジェクトの承認手続きを開始したことを発表した。気候・グリーン成長省 (KGG) は参加に向けた意思・提案通知を発行、オランダ政府の戦略的プロジェクトとなる承認手続きの開始となる。ZET は FSRU (浮体貯蔵・気化設備) を活用する。2028/2029 年稼働開始を目指す。

ドイツ BMWK (経済・気候アクション省) は、2025 年 4 月 30 日、ガス貯蔵設備在庫充填水準既定の調整に関する BMWK 案を連邦政府内閣が承認したことを発表した。同規制案は、ガス貯蔵水準に関する法的義務付けを若干下方修正しつつ、高水準のガス供給セキュリティを持続する。従って、同規制案は、高速で応答性の高い洞窟型貯蔵設備と、注入・払い出し速度の遅い細孔型貯蔵設備を区別する。洞窟型貯蔵設備の貯蔵充填義務は、毎年 11 月 1 日時点で、90%から 80%へと下げられる。この要件は、オーストリア、スイスの供給セキュリティにも重要なドイツ南部の 4 つの多孔質貯蔵設備にも適用されることとなる。その他の多孔質貯蔵設備には、義務水準は 45%に下げられる。この規制手続きは、省令であり、議会承認を必要としない。公布により即、発効する。

ドイツ DET (Deutsche Energy Terminal GmbH) 社は、2025 年 4 月 28 日、FSRU Excelsior (浮体貯蔵・気化設備) がヴィルヘルムスハーフェン近くの Jade Stream 地区特注島型棧橋に到達したことを発表した。同 FSRU は Excelerate Energy 社が所有している。

Wilhelmshaven02 は DET にとりヴィルヘルムスハーフェン第 2 基地、ブルンスビュッテルも含めると自社第 3 基地となる。FSRU Excelsior は、Open Grid Europe (OGE) 社の第 2 ヴィルヘルムスハーフェン接続パイプライン (WAL II) を通じて、ドイツ天然ガス網に接続される。独特の島型栈橋は、DET 向けに Engie 社・Tree Energy Solutions (TES) 社が準備している。

ドイツ Deutsche Energy Terminal (DET) 社は、2025 年 5 月 26 日、LNG 促進法案に基づく重要プロジェクトでもあり、LNG について自社 3 件目の浮体 LNG 輸入基地の稼働開始を発表した。ヴィルヘルムスハーフェン第 2 の LNG 基地で、計画・承認手続きを含め 2 年半でガスパイプライン網に、プロジェクトパートナー ENGIE Deutschland GmbH、Tree Energy Solutions B.V. (TES) により接続された。

INEOS 社、Covestro 社は、2025 年 4 月 30 日、INEOS のグローバルの LNG ポートフォリオから調達する天然ガス供給について、2027 年から 8 年間の長期契約を締結したことを発表した。Covestro は天然ガスを原料やエネルギー源として使用している。INEOS は LNG 部門に 2022 年 6 月、Sempra Infrastructure と米湾岸より年間 140 万トンの供給について 20 年契約を締結して参入した。

リトアニア AB KN Energies 社は、2025 年 5 月 5 日、AB Kauno tiltai 社を、Klaipėda LNG 基地電化プロジェクトの EPC (エンジニアリング・調達・建設) 請負会社を選定したことを発表した。請負会社側は LNG FSRU (浮体貯蔵・気化設備) "Independence" に必要となる電線ケーブル設計・設置を担当する。同プロジェクトは 3 年間以内に完成見込み。

ウクライナ Naftogaz (Нафтогаз) は、2025 年 4 月 24 日、ポーランド ORLEN との、0.1 bcm、LNG カーゴ 1 件分相当のもう 1 件、3 件目の契約を発表した。2025 年 3 月に締結した長期 LNG 協力下で Naftogaz に引き渡される 3 カーゴ目となる。当該 LNG カーゴは、ポーランド Świnoujście 基地で受け入れられることとなる。

欧州委員会は、2025 年 5 月 6 日、「ロシア産エネルギー輸入終焉へのロードマップ」(REPowerEU Roadmap) を発表した。EC による今後の具体案は、EU 市場全体を通じてロシア産ガスの透明性、監視、追跡を改善することを目指すとしている。ロシア産 (パイプライン・LNG とともに) 供給者との新規契約を禁止、既存スポット契約は 2025 年末までに停止される。委員会はこの策が 2025 年末までにロシア産ガスの残り供給を 3 分の 1 削減することを確認できるとしている。委員会はさらにロシア産ガスの残り輸入を全て 2027 年末までに停止することを提案する予定としている。

欧州理事会は、2025 年 5 月 20 日、ロシア制裁第 17 パッケージを採択した。今回制裁は商船三井 (MOL) の LNG 輸送船舶 3 隻を標的に含めた。理事会決定 (CFSP) 2025/931 によると、*North Moon, North Ocean, North Light* は「エネルギー・インフラストラクチャーを含むロシアエネルギー部門の開発、発展、拡大のための措置または政策に貢献したり、支援したりするような方法で運航されている」という。

[南米]

Harbour Energy 社は、2025 年 5 月 2 日、自社とパートナー Pan American Energy、YPF、Pampa Energía、Golar LNG がアルゼンチン Southern Energy FLNG (浮体液化天然ガス生産) 輸出プロジェクトの FID (最終投資決定) を行ったことを発表した。同プロジェクトは、Golar LNG の FLNG 船舶中、Hilli Episeyo、MK II の 2 隻をリオネグロ地方沖に配備することを想定している。同プロジェクトは LNG 年間 600 万トンの処理・輸出容量を持つことを見込む。Southern Energy パートナー達は、Hilli Episeyo からの生産開始を 2027 年末目標としており、MK II は 2028 年末稼働開始を見込んでいる。Southern Energy S.A. (SESA) は、ガス生産企業 Pan American Energy (30%), YPF (25%), Pampa Energia (20%), Harbour Energy (15%) の企業連合、および Golar LNG (10%) が所有している。

Golar LNG 社は、2025 年 5 月 2 日、FLNG Hilli Episeyo についての、2024 年 7 月 5 日に発表した 20 年間の再配置備船の FID (最終投資決定)・前提条件全部の充足を発表した。同船は Southern Energy S.A. (SESA) 向け、アルゼンチン沖合に備船・配置される。さらに Golar・SESA は MKII FLNG の 20 年間備船の正式契約を締結した。同船は中国の烟台中集来福士海洋工程有限公司 (CIMC Raffles shipyard in Yantai) で建造中である。MKII FLNG 備船は引き続き、FLNG Hilli 同様に、2025 年内に見込まれる FID および規制承認が条件となる。Golar LNG 社によると、LNG 輸送船舶 Fuji は、同社初の Mk II FLNG に改造するため、前記の中国の烟台中集来福士海洋工程ヤードで改造されるために、2 つに切断された。第 2、3 タンク間の新規の中間部分が液化機器を収納し、元来の船舶のタンクが両側に再度接合されることとなる。

Golar LNG 社は、2025 年 5 月 27 日、自社 FLNG 船団に関して、「造船所と、2025 年内に追加の発注に関して、価格・日程を固めるように相談している」と述べた。

Wison New Energies (WNE) (恵生清洁能源) は、2025 年 4 月 25 日、スリナム沖第 52 鉱区新規建設の FLNG (浮体 LNG 生産) 設備の詳細事業化調査 (DFS) 契約を締結したことを発表した。同国沖 120 km に位置し、水深 450 m の Sloanea ガス田を活用する。

New Fortress Energy Inc. (NFE) 社は、2025 年 5 月 13 日、自社子会社が 125,000 m³ FSRU (浮体貯蔵・気化設備) Energos Freeze についてドミニカ共和国 Energía 2000 社向けの 3 年間の備船契約を締結したことを発表した。Energos Freeze は Energía 2000 の Pepillo Salcedo (Manzanillo) 港 LNG 輸入基地に配置され、2025 年 9 月に稼働開始見込みである。

[グローバル]

IEA (国際エネルギー機関) Global Methane Tracker 2025 によると、化石燃料からのメタン排出が依然高水準にある。最新版は、データ収集・メタン漏洩監視取り組みの進展を指摘している。化石燃料部門は人間の活動による世界のメタン排出の 3 分の 1 近くを占めている。同報告書によると、過去最高の石油、ガス、石炭生産により、および今日までの削減取

り組みの限界により、エネルギー部門のメタン排出は年間 1.20 億トン超を維持している。2025 年最新版は、国別の時系列排出データ、国際的なメタン排出管理取り組みを見ることができるインタラクティブなツール、放棄された化石燃料設備からの排出推定と、新たな要素を取り込んでいる。

LNG 海運業界団体 SEA-LNG は、2025 年 5 月 14 日、MEPC 83 (IMO (国際海事機関) 海洋環境保護委員会第 83 回会合) を受けて、IMO ネットゼロフレームワークの初期的分析を完了したことを明らかにした。その計算結果によれば、同フレームワーク下で LNG デュアルフューエル船舶への投資が、船主にとりメタノール、アンモニア、VLSFO (低硫黄燃料油) よりも回収期間が大幅に短くなるとのこと。

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp